

慶應志木会会報

慶應志木会(慶應義塾志木高等学校同窓会)

1989(春・夏号)



vol. 1



慶應志木会

(慶應義塾志木高等学校同窓会)

結成さる。

昭和63年11月27日
ホテルオークラで

昭和63年11月27日、ホテルオークラ平安の間は、熱気につつまれていた。全国各地から駆けつけた、実に1,555名の同窓生が出席して、永年の懸案であった農業高校、志木高校統合の同窓会「慶應志木会」創立総会が開かれ、母校創立40周年のこの機に、志木を心のふるさととする8,000名の塾員の統一組織が誕生したのであった。石川忠雄塾長を始めとする来賓の方々の祝辞があり、懐かしい先生方を囲み、久しぶりに顔を揃えた同期生の思い出話はいつまでもつきず、楽しい秋の一日を過ごした。





「慶應志木会会報」発行に寄せて

慶應義塾塾長
石川 忠雄

慶應義塾は一貫教育を特色とする学塾である。しかも慶應義塾ではその憲法ともいえるべき「慶應義塾規約」のなかで、大学も、諸学校も、慶應義塾の設置する学校として、同格、同列に置かれている。志木高等学校も、他大学に見られるような大学附属高等学校ではなく、独自のアイデンティティをもつ学校なのである。しかし、それでいて、それらの諸学校が個々別々のものとして存在しているのではなく、福澤先生を共通の創立者とし、先生の教育理念に基づく一貫性をもった共同体でもあるのである。

こうした教育環境に育った諸君は、義塾の

教育制度における一貫教育の、いわば中核をなすものといってよい。近年、塾員はひとり経済界ばかりでなく、頗る広い分野に進出しており、私はそのことを心強く思っている。特に嬉しいのは、その第一線で活躍している人々のなかに、志木高等学校の卒業生をはじめ、塾内進学者諸君の顔を、数多く見出し得ることである。

温故知新という言葉があるが、今年の慶應志木会発足に続き、今回の「慶應志木会会報」発行を機会に、若き日に結ばれたお互いの友情を、あらためて温め合ってほしいものである。



途切れのない未来に向けて

慶應志木会名誉会長
慶應義塾志木高等学校校長

宮下 啓三

志木高の校長の役をおおせつかったばかりの私の目の前で志木会が、まるで火山のように、すばらしいエネルギーを噴出させ、むくむくと盛り上がり姿をあらわしました。創立の日の熱気にみちた会場で私は、女神アテーナーが成人した姿のまま誕生したと語るギリシア神話のひとこまを連想していました。そう言いたいくらいに突如として志木会は立派に整った同窓会の姿をもって生まれ出てき

たのです。文字通り立錐の余地のないほどに会場を埋めた志木高卒業生たちのエネルギーに私はひたすら驚嘆するばかりでした。

もちろん、これは華やかな舞台だけを見た者の無邪気な感想にすぎません。誕生に至るまでに多くの人たちが協議をかさね連絡をとりあって組織をつくるのに、どれほど苦勞をしなくてはならなかったか、察するに余りあります。熱気のこもる会場からは見えない柱

のかげで嬉し涙をぬぐっていた幹事たちを私は目にしました。その人たちは、舞台の上では感傷の涙など見せないで、堂々と立派に志木会誕生の場面を演じていたのです。誕生を祝う喚声も、人知れず流された涙も、ともに同じ思いから発しています。卒業生たちをこれほど強い力で引き寄せる志木高に身を寄せる機会を得た私はつくづく幸せ者です。

ところで、志木会の幹事の方々はごく謙虚に母校に対して「御指導をいただきたい」とおっしゃいます。「とんでもない」と私は答えます。現役の生徒たちの指導に手一杯で同窓

会の指導にまわす力など余っていない、という意味でそう答えるではありません。同窓会は同窓会なりに独自の道を拓いて、その知恵と力とによって後輩たちに有益な刺激を与えてほしい、と願えばこそです。一人立ちした卒業生たちにとやかく指導めいたことを学校側ができる道理がありません。むしろ、たがいに独立して自らを尊ぶ存在であることを前提にして、気心を通じ合い、声をかけ合い、励まし合っていく関係を保ちつづけましょう。



「慶應志木会会報」発行を祝う

慶應連合三田会会長
服部 禮次郎

昨年めでたく結成された「慶應志木会の機関紙「慶應志木会報」の第一号が、このたび発行されるはこびとなったことは、義塾社中にとり、まことに慶ばしいことであり、謹んでお祝い申し上げます。

同窓会は母校を愛する卒業生の真情と、同窓生相互の友情とをその基盤とするものですが、組織としての同窓会の運営には、四つの要件があります。

第一は、会則・役員・連絡先が明確になっていることです。「慶應志木会」は、すでに完全な会則を備え、充実した陣容の役員が就任しておられ、母校のなかに本部事務所をもっておられます。

第二は、会員名簿が整備されていることです。「慶應志木会」では、名簿委員のご努力で、すでに立派な同窓会名簿を刊行しておられま

す。

第三は、総会そのほかの会合が、定期的に行われることです。「慶應志木会」では、昨年11月盛大な創立総会がひらかれました。これからも、会則にもとづく定期総会、ならびに同期の会、世話人の会など、さまざまな会合がひらかれることと期待されます。

同窓会運営の第四の要件は、機関紙の発行によって、会員のあいだのコミュニケーションがよく保たれていることです。以上四つの要件がそろい、それが円滑に進められていけば、同窓会は組織体として立派に機能してゆくに違いありません。

「慶應志木会」は、すでに第一、第二、第三の発展要件を立派に果たしておられます。誠に敬服にたえません。

そして、このたび第四の要件である機関紙

の発行がいよいよ実現されることとなり、「慶應志木会」はますます発展の基礎を確立されたわけであります。義塾社中のなかで有力な地位を占める「慶應志木会」が、これを機会

に一層の隆盛を迎えられることを固く信ずるものであります。



お礼と会報発行等今後の運営について

慶應志木会会長

櫻井英太郎

志木会発足の経緯につきましては、昨年1月学校当局より志木高校が創立40周年を迎えたこと、又慶應諸学校で同窓会組織がないのは志木高のみであることを知り、早速卒業生有志一同集まり、母校の発展、更には会員相互の親睦がすすみ会員諸兄の人生に役立てばとの願いをこめて農高、志木高合一の同窓会を結成致しました。

先ずは同窓会組織の基盤となる名簿の作成と総会開催の二点に的をしぼり、世話人幹事一同心を合わせ努力邁進してきましたが、学校側の多大なるご支援と世話人、幹事諸兄の云い知れぬご盡力、更には会員各位の絶大なるご理解ご支援を得まして短期間にも拘らず立派な名簿を完成し、総会も1,555名のご参加によりまして盛大裡に開催出来ました。石川塾長をはじめご来賓の方々より讃辞を頂き、一方名簿の広告収入、寄付金についても多数の方のご協力によりまして初年度の事業収支は黒字計上出来ました。会員各位に感謝をこめてご披露致します。

次に初年度以降について志木会の維持発展のために実行したい事柄について、幹事会にて取り決めたことを報告申し上げますと、

○志木会を未来永劫維持発展させるために

は、会報の発行が不可欠であるとの判断から平成元年には春秋2回発行することに決めました。将来は年4回の発行を目標に努力致します。

○名簿につきましては委員の筆舌につくしがたい努力によりまして、短期間にも拘らず立派に完成してもらいましたが、一部の期では住所等不備があります。早期に正誤表を作成発行することにしております。

○寄付金につきましてはご寄付頂いた各位のお気持ちを参酌して、寄付相当額に近い額を学校側と相談して何んらかの形で寄付させて頂きます。

○志木会総会の今後の開催につきましては、5年毎に開催することと致しました。第一回の成功を踏台にして更に充実した楽しい会を実施したいと願っております。

以上骨子のみ述べましたが更なる充実発展をはかるためには一部組織の見直しと若手世話人の起用と、経済的基盤の確立が肝要です。必要に応じ漸次ご協力頂きたいと思っておりますので、事情ご賢察下さいまして今後共格別のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

最後に志木高の益々の発展と、会員各位のご健勝ご活躍を心からお祈り申し上げます。

FROM SHIKI ●志木だより

春を迎えてキャンパス内の緑もようやくその色を濃くして参りました。入試シーズンに咲く梅の花から始まって、沈丁花・椿・すもも・桜と、春の花々が次々と咲き誇っています。このように昔のままの自然を残しているとはいうものの、しかし今の志木高は、都市化の波に洗われています。有隣寮や食堂の前にあったあの巨大な松の木は松喰い虫の被害を受けて、そのうちの何本かは切り倒さざるをえなくなりました。かつて校内を流れていた野火止用水も、年とともに汚濁が進み、昭和50年から暗渠に切り替えましたが、今度校地の外側を廻すことになり、昨年秋から工事が始まりました。それとともに、寄宿舎との間を走っている都市計画道路の拡幅工事も行なわれ、交通量が増えたためもあって、寄宿舎が一段と遠くなったように感じられます。このようにして、新校舎落成以来、いや、スーパーダイエーやマンション等の高層ビルの建設以来、それほど大きな変化がなかったと思われる志木高校も、少しずつ姿を変えて来つつあります。そういった、変わりつつある学校の姿、また、昔のままの変わらない学校の姿を、このコーナーを通じてご案内することになりました。

まず、昨年の秋以降の主な学校行事をご紹介します。

旅行

一年 研修旅行 秩父 9月27日～29日

一年の研修旅行が箱根から秩父に変わったのは昭和58年です。今年で六年目にあたります。地学生物の研修とオリエンテーリングを行なっています。今年は悪天候のため全部出来なかったクラスもありました。

二年 研修旅行 東北 9月27日～29日

二年の研修旅行は昭和58年から信州で行なっていましたが、62年から東北に戻りました。希望によって石川啄木コースと宮沢賢治コースとに分け、盛岡・花巻・遠野とまわりました。

三年 見学旅行 九州 前班10月3日～7日
後班10月4日～8日

三年も昭和59年から3年間関西（京都・奈良・四日市・大台・熊野等）で研修旅行を実施してきましたが、62年から九州の見学旅行に変わりました。3クラスずつ前後班に分かれ、博多・柳川・長崎・阿蘇・中津・秋吉台とまわりました。中津では復元成った福澤田邸と記念館を見学し、塾歌あるいは若き血を斉唱しました。

運動会 10月16日

一年が7クラスのため色別の対抗戦が出来ず、それぞれのクラスを赤白の2チームに分けて競いました。新任の宮下校長が生徒に挨拶した最初の日でした。

収穫祭 11月5日～6日

二日間で四千名の入場者がありました。後夜祭には、9月に退任された金子校長と前年退職された三谷先生をご招待し、実行委員会が花束を贈呈しました。

マラソン大会 12月7日 森林公園

昭和61年から森林公園内のコースを使用しています。森林公園は広々とどかで一般道路を使ったときのような危険はないのですが、遠いのが難点で、学校からバスで往復しています。全学年一緒に走り、一位は一年生でした。

次に、学校にとって大きな行事である入試と卒業です。

本年の入試は次のような日程で行なわれ、その状況は次のとおりです。

第一次試験	2月14日
第一次発表	2月19日
第二次試験	2月20日21日
合格発表	2月23日
(24日に予定していましたが、大葬の礼のため一日繰り上げました。)	
志願者	3543名
入学許可者	503名
入学者	261名
内部進学者	6名
入学者合計	267名(3月29日現在)



奥井泰夫先生
(数学科)

昭和23年、本校創立とともに就任され、62年3月に定年で退職されました。35年から39年まで主事を務められ、その後も教務関係の校務の整備や自然環境の保護に尽くされました。53年から55年まで舎監を務められ、最後の年まで担任をなさり、オクジイの敬称?で生徒に慕われていらっしゃいました。



三谷和男先生
(数学科)

昭和32年に就任され、63年3月に選択定年で退職されました。コンピューター教育に情熱を注がれ、コンピューターソサィエティの指導に力を尽くしておられました。塾内のコンピューター委員会の委員をお務めになりました。晩年世界各地を旅行され、数々の面白いお話を聞かして下さいました。

卒業式は3月24日に行なわれ、282名の卒業生が巣立って行きました。本塾大学各学部への推薦状況は以下のとおりです。

文学部	17名
経済学部	106名
法学部法律学科	45名
法学部政治学科	45名
商学部	20名
医学部	7名
理工学部	39名
推薦辞退	3名

なお、辞退者3名は、いずれも他大学医学部へ入学が決まった模様です。

次に、ここ三年ほどの間に本校を去って行かれた先生方をご紹介します。



山田伊和夫先生
(社会科)

昭和32年に就任され、62年3月に定年で退職されました。主に政治経済と世界史を担当され、担任や校内の諸委員を務められました。新聞部の部長として「志木高新聞」の刊行に尽力され、また、弓道部の部長として部の発展に尽くされました。



山田忠雄先生
(社会科)

山忠の略称で親しまれた山田先生は、この3月、教授として東海大学に移られました。31年間本校の教壇に立たれましたが、その豊かな学殖を披瀝された先生の授業には、思い出深いものがあると思います。著書「一揆打毀しの運動構造」によって、1985年、文学博士になられました。

同期会だより

1期

〔慶應四季会〕

平成元年2月10日・新宿「車屋」

冒頭、櫻井（英）君から今回の「慶應志木会」に寄せられた、同窓諸君の協力を感謝を述べるとともに報告、龍野君の乾杯で宴の幕を開けました。

何時もの見馴れた顔に加えて久し振りに、伊藤、栗田、藤井、小山、平沢の諸兄が顔を出してくれて会も一段と盛り上がったような思いがいたしました。

会う度に一段と、円熟した仲間の顔に安らぎと落ち着きを感じられ、何か歳を感じるような気持ち、少々寂しく思いましたが、一方では時は過ぎ去っても、青春は今なお私達の心の中に脈々と生き続けていることを実感として感じさせてくれるに十分な雰囲気でした。“これが青春だ！”と縁に触れて蠢くのを感じるのがこの「クラス会」の良いところではないでしょうか。

この躍動感が、明日からの活動の“エネルギー”となり、確実に実感として、今生きていることへの証を教えてくれているのだと強く感じます。

善いことも、悪いこともこの仲間と共に学び教えられ、青春の躍動の中で、それぞれが人生で二度と得ることの出来ない体験をしてきたのではないのでしょうか。

しがらみのない身軽な身体を、仲間と共に東へ西へ、異性に強い関心を持ち、大人の仲間になったような得意な気持ちでいたのもこの時代だったような気がします。

年老いた顔も、そのような中で童顔になり出席者全員に懐古の念を与えてくれました。

小山君がこの次には必ず「間中君」の住所を調べてくれると約束してくれました。このように仲間の輪が少しずつ広がる喜びが、

酒の酔いも手伝って全身に滾って行くものを感じ、平沢君の手締め、そして伊藤君の挨拶、応援指導部の藤井君の名リードによる「若き血」の大合唱が、新宿の宵闇にとけて行くのを感じながら散開をいたしました。（大谷記）

出席者（順不同 敬称略）

有坂幸三郎、井上栄一、伊藤正徳、今井義夫、櫻井英太郎、田中久雄、龍野和久、大谷 熙波、多野雅弘、中込 旭、矢島醇一、藪田勝久、菊地誠之助、栗田睦弘、藤井 淳、抜井宏寿、中守捷夫、小山 栄、平沢 昭、塩 暎、松本仙太郎、大桐菊郎、荻野源昭、加藤精三

2期

慶應志木会総会にむけ、我々2期名簿作成には、同期は勿論、前後期の諸兄のご協力を得ながら現在判明していた在籍60名中物故者4名を除き40名が確認され、総会の出席者は27名という高出席率となり、皆久々の会期に昔話、近況等の会話に花をさかせた。総会後記念撮影、大部分の諸兄は二次会へ……。会場では改めて全員近況紹介、物故者への黙禱、同期会開催計画（本年2月予定）等話がはずみ、最後に「丘の上」を熱唱後解散した。その後年末年始の慌しいなか有志を中心にして同期会準備をしていたが、昭和天皇の崩御によりやむなく延期となった。改めて総会時の写真等が整理された時期に同期会を開催する予定でその節は諸兄の参加を期待している。（鴻田記）

3期

思い出づくし

「受験番号1004」これが私と慶應義塾の出会いの番号。それにしては人が少なく、何か不気味な気はしていました。「清濁硬軟剛柔」併せ持った正に塾だった。——堆肥播麦踏み、麦のうねの間の除草、（暑い暑い）さつまいものおやつ、麦刈り（チクチク）牧草畑の肥え播き（くさい、こぼすな）柿畑の贈り物？、食堂のオヤジ（マックヤンナッチャウヨナー）収穫祭（豚の姿を思い浮べて食べたトンカツの味）素足の運動会、片岡先生の背広の白墨、ストーヴの囲りの円座授業

(相磯先生) ——一つ一つが皆、深くズシとなつかくし思い出されることでしょう。福沢諭吉先生の「実学の精神」が正に脈々と自由闊達に躍動していた、いわゆる「K Oボーイ」という軟弱なイメージとは程遠い、これぞ慶應義塾の健学の精神といったものを、充実した内容と共に詰め込んだ3年間であった。今はなき多くの師、先輩、同輩、後輩に合掌し、共に過ごした思い出の筆を置く。

(三期生 岩崎勝利記)

4期

福の会 (29年卒)

29年3月、日吉・三田・志木三高校卒業生合同の同期会です。

総会は毎年12月の第3土曜日5:00PM東京三田クラブ(帝国ホテル地下)で開催しています。

志木からの出席者は毎回15~16名で入学時の先輩、卒業時の後輩が入り交ってワイワイやっています。最近出席者がや、常連化しているのが残念です。

新しいメンバーを誘ってドンドン参加して下さい。

一年でも農高に在学した者は全て会員です。

(三浦記)

5期

時の経過は早いもので、私達の母校が創立40年を迎え、同窓会が盛大に挙行された事は、ご同慶の至りです。当日、ホテルオークラに参加された方々は、昔を思い出して、喜々として話に花を咲かせました。

それぞれ相手の名前が浮ばないで、お互い胸につけた名札を見て、大きな声を上げました。思いおこせば、昭和27年4月に入学し、それから3年間有余、御一緒した面々です。5万坪のキャンパスに生徒は、僅か300人という少なさの中で、兄弟のような家族的雰囲気でした。同窓生の近況は、5期生全体で、在籍者数106名でしたが、すでに亡くなられた方が4名いらっしゃいます。その方々は、浅川恵右君、福田英勇君、高山信幸君、佐々木孝仁君であります。誌上をかりて、御冥福をお祈り申し上げます。その他に音信不通の方が15名います。現在連絡のつく87名中、当日出席された友人は46名です。多木温夫君と大溪幸男君は現在アメリカに、伊藤達博君は西ドイツに、各々在住されています。

(幹事 宮田勝・寺嶋延行)

7期

7期の皆さん、元気に活躍されていることと思います。

既にご承知の通り、昨年11月第1回志木会が盛大に行われましたが、7期も34人参加し旧交をあたため合いました。なかには、大学以来だ、いや農高卒業以来30年振りだとか、農業実習の思い出話や当時の悪戯を振り返り賑やかに楽しい時間を過ごしました。

今年も7期会を秋頃開催したいと考えています、ぜひ大勢の参加を楽しみにしています。

なお、まだ住所等不明の方が若干いますので、もし消息を知る機会がありましたら幹事に連絡して下さい。(笹島記)



日本石油

主役はこの100。

HY-PRODUCT
TEC-FLUSHER
2S-B(特許出願中)

高品質、無鉛100オクタンガソリン!

日石ダッシュレーサー

100

8期

私たち第8期生は昭和30年4月入学しました。校舎も現在のところではなく、もっと駅寄りにあり田園風景豊かな環境にありました。農業高等学校最後の卒業生であることに大変誇りに思っています。大学進学にあっても一般受験生と同じ試験をうけ、文科系のみしか進めず卒はめを受けましたが、ユニークな個性を持った人々が多く、先生方にとっては印象的な生徒が沢山おられたと思います。一週にまる一日の農作業は四季を通じ、開墾などの苦しみはありましたが「土に親しむ」ことを教えられ、卒業生全員のパワーの一部になっていることでしょう。昨年9月に、初めての同期会をひらき懐しい顔ぶれが揃い盛会でした。今後も定期的にこの会を続けていくことにしておりますので、その節にはご参加下さるようお願い致します。

9期

昭和34年に卒業して30年になります。小学校から大学時代と思い出は沢山ありますが、志木の3年ほど忘れ難いものはありません。収穫祭や農耕の事、部活動の事、行き帰りの東上線での語らいや少々の悪ふざけ、毎年の旅行、そして九州一周の修学旅行と話題はつきません。特に修学旅行では大阪の松陰女子高校と偶然にも日程が一緒でしたのでお互いに交流がさかんになり汽車の中では、おやつやの差入やら宿泊地では、夕食後コーヒーショップでデートしたり、中には大学卒業後目出たく結婚にゴールインしたカップルも出ました。先生方はさぞかし御心配だったと思いますが何の一言も注意なく私達を信頼し優しく見守っていただきました。こうして振り返ってみると志木の3年間は本当に諸先生方の温かい御理解のもとに学園生活を満喫出来たことをつくづく感じる毎日です。(9期 藤中泰三)

10期

先般の志木会終了後(二次会として)、会へ参加した全んどの者が出席して、同期会を開催した。

この同期会には、数名の恩師をお招きし、本会場では味わえなかった異質の盛り上りで、時の経つのを忘れた。就中、「農場はその後どうなったか?」「柿の木は残っているか?」「学内喫煙者は相変わらず多いのか?」「当時の先生の消息」等々、その後の志木高についての質問に対し、昔と変らぬ身ぶり手ぶりで答えて下さった先生方の口調には、懐しさもひとしおであった。

11期

遊志会活動報告

昨年度(昭和63年)の活動内容:

(幹事B組、木村、杉井)

- 1月8日(木) 新年会 交詢社に於て志木高先生方6名を含め43名が参加
- 2月25日(木) 第7回セミナー〔経営管理について〕9名参加 講師 増山雅久君
- 4月3日(日) 第32回ゴルフ大会 於厚木国際C.C. 14名参加 優勝野末忠弘君
- 4月28日(木) 第8回セミナー〔上手な保険のかけ方〕5名参加 講師佐藤直司君
- 6月29日(水) 池田信彦君歓迎会 日本橋エドに於て参加者10名
- 7月10日(日) 第33回ゴルフ大会 於厚木国際C.C. 14名参加 優勝山本久方君
- 11月13日(日) 第34回ゴルフ大会 於サザンクロスC.C. 7名参加 優勝馬淵祥宏君
- 11月27日(日) オール志木高同窓会 於ホテルオークラ 同期49名参加
- 12月1日(木) 次年度幹事引き継ぎ打合せ 日本橋エドに於て参加者5名

本年度(平成元年)の活動スケジュール:

(幹事C組、山本、村木、平田)

- 3月7日(火) 第9回セミナー〔大河ドラマ武田信玄〕講師NHKプロデューサー村上慧氏(36年卒)
- 5月7日(日) 第35回ゴルフ大会〔2月18日雨天延期のため〕於厚木国際C.C.
- 5月19日(金) 第10回セミナー〔味の素、アサヒビール工場見学会〕
- 7月8日(土) 第36回ゴルフ大会

。9月1日(金) 夏の夜の納涼屋形船〔お台場沖〕

。11月17日(金)～18日(土) 第37回ゴルフ大会及び忘年会(神奈川県鶴巻温泉)

(馬淵記)

12期

いちばんの大本である「名簿」に関しては、クラブ活動のグループ・リーダーを中心に、9割近くの仲間の住所を尋ね当てた。また、記念式典にも、7割近い出席があり、同期の結束の堅さを再確認した次第である。今後は、このチームワークのすばらしさを生かして、定期的親睦会開催を計画している。また、楽しい話題としては、お揃いのブレザーをつくろうといったアイデアも出されている。(岡本・朝倉記)

13期

第13期・近況

昨年の11月5日、久しぶりの収穫祭見学を兼ねて13期初めての同窓会を、思い出の志木で開いた。実に高校卒業後25年ぶりである。当時いろいろといじめられた先生方にもおいで頂き、楽しかった青春時代の思い出話に花が咲いたものであった。200名中60余人の出席ではあったが、一見、先生と見間違えう程に成長(後退?)した学友達が織り成す丁度止は壮観なものがあった。25年間のそれぞれの人生の重みを感じた一日であった。

(文責 森 孝)

15期

亦楽会

慶應志木高校を昭和40年3月に卒業した我々(15期)は10年前より毎年秋に亦楽会という同窓会を開いています。

この亦楽会(えきらくかい)という名称は雨宮元校長先生に孔子の論語の学而第一「友遠方より来る有り、亦楽しからずや」より命名して戴きました。

同期の積極的な協力の中、毎年違う当該幹事が趣向を凝らした催物を企画して、毎回多数の恩師、同期生の出席のもと、命名の通り

とても楽しい会となっています。

16期

団塊の世代たった中の第16期は卒業(昭和41年)後19年目の秋に一部有志の努力により名簿を整え、初回の同期会を我等が同期の経営する万世にて開催いたしました。以来この万世の「世」と志木の「志」をもじり「志世会」と命名し毎年9月の第2土曜日に集まっております。青春時代に見た映画の題名ではありませんが、ウエストサイズ ストーリーを気にしつつ子供の進学を心配するニューシルバー予備軍です。

17期

のびDEメイト'66(第17期生)

会長 村井 誠

東京オリンピックの年に入学した我々17期は、卒業20年後の昭和61年3月に同期会を結成しました。当日は連絡のついた半数以上の百十余名が銀座第一ホテルに参集しました。そして昨年の慶應志木会創立時には、各期中最大の89名が結集し、引き続き行なわれた、六本木将軍での第二回同期の宴にも70数名の会となりました。なお今夏7月15日には、岐阜の長良川畔にて有志の会を予定しております。連絡先は松久博夫君(岐阜65-3250)です。事務局長は西村孝一君(東京541-0385)です。また名簿代・維持会費等の振込銀行口座は第一勧銀本店普通預金No.2581807「のびどめいと'66 会計須永泰司」宛(TEL.596-4996)ですので宜しく!

20期

20期の同窓会について

希望に溢れ胸躍らせ志木高の門を叩いたあの時の新入生が昨年成人式を迎えました。意義ある志木高40周年の節目の中で頂度中間点が20期であります。そして大変趣のあった本館や懐しい平屋の教室とピカピカの四階建て校舎と体育館等在学中に二つの志木高を体験できた恵まれた学年も我々20期なのであります。昨年の同窓会設立総会には幹事の不手際にも拘らず約40名の出席があり大い

に旧交を深めるとともに本年20期の同窓会を開催することが満場一致で約束されました。新しい時代の幕明けの時に我々20期は各々の分野でその力を発揮していることと思われま。第一回の20期同窓会が有意義なものにできるよう計画したいと思っております。

(幹事 木原弘人)

21期

我々21期は、過日開催された志木会40周年の集まりが、組織だった初めてのものでした。

卒業以来、久しぶりにみる顔も多く大変なつかしく思いました。2次会・3次会等も大変盛り上がり、久びさの学生時代のノリを再現し、店の方より注意をうける一幕もあるほどでした。

これを機会に、21期同窓会を発足させることができました。顧問を龍田正浩先生にお願いし、年1～2回程度集まれるようにしていきたいと考えています。名簿の整備は進めていきますので、住所変更・不明者等の連絡を必ず行なって下さい。(21期幹事 飯田光茂)

22期

「ワレラのニッパチ会」

28年生まれを中心とする22期のニッパチ会は、昨年2月20日(土)帝国ホテルB1三田倶楽部にて90名が集まり、大成功のうちにその産声をあげました。この第1回は、杉浦氏、乾氏、本氏、木和田氏、是枝氏、衛藤氏等の努力によって開催までこぎつけ、三田倶楽部の片平康夫支配人によれば『近年にな

い程の面白さをもった同窓会ですね』との弁。今年も2月18日に同三田倶楽部に45名がかけつけ笑い笑いの連続で、文字通り陽性の人間の集まりのニッパチ会でした。そして、来年も同じく2月の第3土曜日に同じ場所で予定しています。「光陰矢の如し」「Time passed like an arrow」きっとあつという間に1年が経つことでしょう。22期生、全員集合!

平成2年度28会幹事 秦 考一 問合せはFIC03-485-7106まで。

23期

昨年11月の第1回志木会総会は我々23期生にとって卒業以来はじめての集まりでした。これを期に23期同期会も発足させる事になり、第1回同期会を6月3日(土)に予定しています。同期の皆様ふるって御参加下さい。

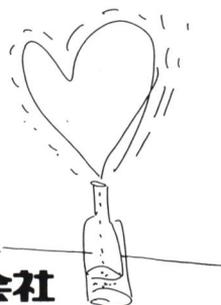
又、毎月23日は(土・日・祭日を除く)23期の日として有志による懇親会も行っております。(もちろん参加熱烈歓迎)2月23日も大変な盛り上がりでした。(外山記)
連絡先 幹事外山 電話 自宅03-721-9250
会社03-220-6076

25期

11/27 ホテルオークラでの第1回慶應志木会当日、我々第25期卒業生の出席者は約50名、幹事の期待を上回る数であった。卒業以来10数年ぶりという仲間も大勢いて大いに盛り上がり、散会後も幾つかのグループに別れ二次会で再会を楽しんでいた。

ガラスって、あったかい。

小さな子供の手、やさしいお母さんの手、大きなお父さんの手。さまざまな手のひらの中で、美しく輝きつけてきたガラスたち。ガラスは、食卓の四季に美しい彩りをそえ、楽しい語らいの場をさわやかに演出する、コミュニケーション・メディアです。私たち東洋ガラスは、これからもガラスの容器づくりを通して、「おいしい食生活」のお役に立ちたいと思います。



東洋ガラス株式会社

〒100 東京都千代田区千代田1-3-1幸ビル TEL. 03-501-5320

今後の方針として①年1～2回を目標に同期会を開催する。②本年度同期会を10月頃開催する。③名簿の一層の充実と連絡網の整備のため幹事の増員を計る等の事項が話し合わせ、出席者の間で確認された。

(第25期幹事 高橋・小川)

27期

名簿の作成、同窓会の結成に多数のご協力を賜り、ありがとうございました。これを機会に、1年に1度程度は同期会をとも考えています。(幹事を募集致します!)

さて、今回の名簿の作成では、幹事の怠慢から多数の行方不明者が出ております。同期会の連絡の為にも名簿の整備にご協力下さい。訂正、追加等は大山までファックス(03-5992-0887)又は郵便(171豊島区池袋2-930-901)でご連絡下さい。

(27期 美平照王/大山俊雄)

30期

昨年11月に開催された慶應志木会が、同期会等の機会を作っていなかった我々にとっては、本当に久しぶりの再会となりました。

昔から全く変わっていない者、風貌、体型が著しく変わった者等多種多彩で、話題は尽きませんでした。又、現在の仕事のこと私生活の近況など、話すことが沢山あり、2次会、3次会へと繰り出すパワーは一向に衰えていませんでした。

最後に全員で歌った若き血は、“本当に良かった”の一言に尽きます。立派な名簿を作って頂きましたので、それを頼りに同期会の開催も今後は考えたいと思います。

(30期幹事 麓 正忠)

31期

私達31期も、志木高卒業後8年を経た事になる。この間統一的な同期会等は行われていなかった様であるが、昨秋の志木会のパーティーでは、懐かしい面々が多数出席し、おおいに盛り上がった。これを

機に、我々も同期会をとという声も多く聞かれ、志木会31期幹事としても、機は熟したかとの思いにかられる今日この頃である。なお、志木会名簿中に不明者が多数おられます。失礼をお詫びすると同時に、心当りのある方は至急御連絡下さい。

34期

私達34期は、昨年4月に社会人となり、毎日無我夢中となって働いている人が6割、大学院生も含め、学生をエンジョイしている人が4割(さすが志木高生)という大変アンバランスで連絡のとりにくい状況となっています。

そのため、ほぼ全員の人達が社会人となる2年先ぐらいに同期会の開催という予定で計画を進めようと思っています。

(34期幹事 山下 孝)

35期

第35期は、今年4月先輩方の後を追う社会人の仲間入りをする期である。まだ学校で同期生と会えるせいか、今回の「志木会」への参加者は22名にとどまった。2、3月は、最後のロングバケーションというわけで、卒業旅行に出掛ける者、就職の準備に追われる者と大忙しであった。次回からは、同期生との再会の場である「志木会」となるわけで、多数の参加を期待し、大いに盛りあがりたいと思っている。

(35期副幹事 山口一平)

38期

はじめて生徒手帳から「ジーンズ類着用の通学は認めない」という校則が消え、都市化の進む志木の街で、私達はより自由な雰囲気にもまれて、3年間の高校生活を過ごしてきました。秩父でのオリエンテーリングや信州での俳句づくり、そして長崎・福岡での自由行動など、様々な事を体験できました。中でも第40回記念の収穫祭へ向けて、実行委員を中心に、38期生全員が一丸となって団結することができたのは一番の思い出です。

(38期生代表 平尾圭市)

部活・クラブ・サークル・寄宿舎だより

慶應志木高校ホッケー部

現在、ホッケー部は齊藤顕先生を部長に部員一同一致団結して猛練習に励んでいる。OBの密な集まりは定期的に開催してはいるが、時あるごとにグループで集まって若き時代を語り合っている。私事で申し訳ないが、ホッケー部での3年間の生活は私達に独得の人生体験を与えてくれたばかりか、多くの人達との交流による模擬的な社会体験を味わさせてくれた。信条と呼ぶには明瞭さに欠け、人格形成云々というには大形ではあるが、ホッケー部で得た「何か」が今も神出鬼没に顔を出し、それは今後も礎石の一つとして続けることであろう。(脇田耕一記)

野火止会の歴史

我が、慶應義塾志木高校バスケット部OB会は確か昭和41年、当時大学生OBが集合しOB会の名前を何にするか、中々決まらず喧喧轟々何回も集会をもった頃始まったと記憶している。その後、代を重ね現役を含めると150名近くの陣容になった。その間、現役に対する応援、親睦を兼ねたOB会としての試合、各種パーティ等を実施して今日に至っている。これからも結束を強め現役の好成績に一献傾ける機会が早く、何回も訪れるよう期待したい。

つちくれ
土塊会(寄宿舎同窓会)のこと
土塊会々長 岡本経世

志木高寄宿舎生の同窓会「土塊会」は、一期生(37年度卒、13期生)が大学を卒業する頃に発足し、以来20年余に亙り活動しております。会員数は800名余を数え、志木会員の約1割にあたるわけですが、残念なことに寄宿舎は、あと1年でその28年間の歴史の幕を閉じようとしています。

慶應義塾社中広しといえども唯一の寄宿舎であり、「英国のイートンカレッジの全寮制にその範を求めたい」と、当時の雨宮校長先生の情熱で開寮し、志木高の大きな特色の一つであっただけに、閉寮になることは淋しい限りです。

昨年6月には、土塊会25周年記念パーティーを銀座三越で開催しました。歴代校長、主事、舎監、寄宿舎委員の先生方、寮母さん、200余名の会員が集い、懐しい顔が揃いました。久しぶりにブラスバンドと共に慶應ソングを声高らかに歌いますと、文字通り同じ釜の飯を食べた仲間、時代は違って、たとえ顔は知らなくとも、同じ理想の下に寮生活を送った者同士の繋がりが強く感じられ、親しく心温まる一時を過ごしました。

土塊会々員即ち志木会々員であり、同じ根の同窓会です。共に力を携えて、志木高の益々の発展を願い、大いにバックアップしてゆきたいと願っております。

CLUB
Morena
クラブ モレナ
TEL. 401-4034

ROPPONGI

Good Drinks!
Great Fun!
Grand Entertainment!

English Speaking Hostesses.
Drinks, Music, etc.

SUPPER CLUB
EL CUPID
エル キュービット
TEL. 405-6339

OBの皆様お待ち申し上げます

光永(株)
代表取締役 藤中泰三
慶應志木会(9期)

〒106 東京都港区六本木3丁目7番16号
TEL. 401-4034

志木会レポート

会員の皆様の絶大なる協力により63年11月27日の志木会創立総会を無事終了し、12月9日、日石大樹荘にて、志木高金子前校長、伊東主事、須田事務長、大館先生をお招きし、幹事約50名により打ち上げ慰労会を開催しました。

その後、今後の志木会を如何に運営するか世話人会を本年1月に2回、2月に2回、3月に2回開催致しました。

創立総会以後慶應連合三田会に正式加入し、3月20日にパレスホテルにて開催された春期懇親会に志木会より大谷、多田の2名が出席しました。

3月に入り、学校側と協議し、志木会事務局の学校内設置、事務局設置に伴い女子係員を一部志木会の費用負担にて採用することに致しました。

3月24日志木高等学校卒業式に櫻井会長以下3名が出席し、卒業生282名を新会員として迎えました。今後の活躍を期待致します。

記念品贈呈について現在世話人会で検討中ですが、志木会の名簿管理、維持会費の入金管理のためにパソコンの導入を検討中です。パソコンを導入すれば学校側もワープロ等事務処理に利用出来、一挙両得と考えます。

本年卒業された39期の方の幹事がましました。

正幹事 丸山和紀 副幹事 田中裕樹
財務幹事 武藤知樹 名簿幹事 大貫浩司
以上の4名となっております。

事務局は菅野真理子(すげのまりこ)さんに決まりました。火・水・木・金の週4日午前9時30分～午後4時30分までおりますので、連絡等は菅野さん宛にお願いします。

電話及びFAXは学校の電話0484-71-1361 FAX0484-74-3008までご連絡下さい。

名簿委員よりお願い

住所等変更ございましたら、志木会事務局菅野さん宛にご連絡下さい。

会報委員より

次回の会報を本年10月中に発行する予定でございます。ご意見等ございましたら事務局へご連絡下さい。

慶應志木会名簿維持会費入金状況(平成元年3月4日現在)

	在籍者数	名簿会費払込者	払込率		在籍者数	名簿会費払込者	払込率
①	94名	45名	47.9%	22	270名	70名	25.9%
②	60	32	53.3	23	271	73	26.9
③	48	18	37.5	24	267	73	27.3
④	45	19	42.2	25	262	89	34.0
⑤	106	47	44.3	26	268	61	22.8
6	85	26	30.6	27	249	52	20.9
⑦	98	39	39.8	28	248	68	27.4
⑧	94	69	73.4	29	277	59	21.3
⑨	116	69	59.5	30	262	53	20.2
⑩	196	91	46.4	31	253	44	17.4
11	218	70	32.1	32	262	43	16.4
⑫	202	101	50.0	33	244	34	13.9
⑬	212	100	47.2	34	265	51	19.2
14	195	72	36.9	35	266	53	19.9
⑮	259	105	40.5	36	258	80	31.0
⑯	260	103	39.6	37	338	80	23.7
⑰	265	104	39.2	38	250	83	33.2
18	261	73	28.0				
19	263	85	32.3	合計	8,106	2,494	31.0%
20	260	78	30.0			(当初目標)(3,000)	(37.0%)
21	259	82	31.7	平均	213	66	31.0%

(注1) 在籍者数は、タブリ(約100名)及び死亡等を含む
 - 振込者で無記名者あり
 - タブリ者入金分両期とも入金処理扱い
 - 期に○印がつけてあるものは、目標払込率37%を越えた期。

慶應志木会40周年事業収支(平成元年3月12日現在)

(単位:円)

◎広告収入	11,014,500	◎名簿支出	
◎名簿収入及び維持運営費		(1)名簿印刷費用	9,316,300
パーティ当日入金	1,948,000	(2)版下費用	1,200,000
当日名簿販売	64,000	(3)名簿発送費用	3,293,694
寄付金より振替etc	97,000		13,809,994
(3/4)郵便局振込	10,822,200	◎名簿正誤表作成・発送費用	2,500,000
	12,931,200	◎事務局費用	
◎寄付金収入	3,927,000	(1)趣意書発送費用	1,352,059
◎パーティ収入		(2)通信費	860,125
事前振込	13,042,000	(3)幹事会費用	704,300
当日入金	3,873,000	(4)事務費等	178,116
	16,915,000		3,094,600
○祝儀	150,000	◎会報作成発送費用	700,000
○ワッペン事業	111,000	◎学校への寄付	4,000,000
(売上745千円×15%)		(含む事務局設置費用)	
○テレホンカード事業	1,615,000	◎パーティ費用	
○ネクタイ事業	2,631,000	(1)ホテルオークラ	15,086,488
○ビデオ・ボラロイド事業	407,860	(2)ウイスキー	480,000
○打上会費徴収	110,000	(3)コンパニオン代	1,190,000
○預金利息	11,184	(4)イベント費等	1,140,005
			17,896,493
事業収入計	49,823,744	◎カード費用(1,000セット)	1,580,000
		◎ネクタイ費用(845本)	2,028,000
(立ち上り資金預かり21期	2,270,000)	◎ボラロイド費用	208,000
		事業支出計	45,817,087
		繰越金	4,006,657
		(立ち上り資金返済21期	2,270,000)

MESSAGE

〈お 願 い〉

●名簿代金、維持運営費の入金ご協力のお願い。

今後の志木会の健全な運営には皆様のご協力が不可欠です。昨年お手元に、送付させていただきました名簿のなかに振込用紙を同封させていただきましたしておりますが、未入金の方は、本主旨ご理解のうえ送金手続をお取りいただきますよう重ねてお願い申し上げます。

なお郵便局に備えつけの振込用紙でも送金手続きは出来ます。その場合、

振込口座番号 東京・7-398902

加入者名(振込先) 慶應志木会実行委員会

振込金額 5,000円
(名簿代金3千円、維持会費2千円)

振込人住所氏名 ご住所

ご尊名

卒業の期(名簿に記載)

なお本件に関するご照会は、下記宛お願いいたします。

●各期幹事

●名簿幹事 大谷 熙(1期)TEL632-0005
FAX635-0012

●財務幹事 大道賢二(12期)TEL479-3211
FAX479-0485

●名簿の取り扱いについてお願い

最近多数の会員から“種々の会員、募集等の電話による勧誘に悩まされている”との苦情が寄せられています。会としては当然のこと乍ら会員、学校関係者以

外には名簿を発送しておりません。名簿の取り扱いを誤りますと多数の会員に迷惑をお掛けいたしますのでくれぐれもご注意下さるようお願いいたします。

〈SALE〉

●記念ネクタイの販売

発会式当日販売いたしました記念ネクタイが若干残っております。ご希望の方は4,000円(ネクタイ3,500円送料500円)を同封して下記へご注文下さい。追加生産も可能ですので、同期会で販売したい等のお問合せも下記へどうぞ。

(注文・問合わせ先)

〒104 東京都中央区銀座5-3-12 壺番館ビル4F
田屋ナカニシ小山さん宛

TEL03(571)9055 FAX03(289)2485

●記念ビデオをおわけします

設立総会、懇親パーティーの様相をビデオに収め60分に編集したビデオを作製いたしました。

ご希望の方には実費(送料含む)8,000円でおわけいたします。費用同封の上下記へお申込下さい。なお、VHS、BETAの区別をお忘れなく。
(注文いただいてから製作いたしますので、お届けまでしばらく時間がかかります)

(注文先)

〒353 志木市本町4-14-1 慶應義塾志木高校内
慶應志木会宛

TEL0484-71-1361

FAX0484-74-3008

●編集後記

昨年11月に発足した慶應志木会の、活動の一環として、会報を作れという至上命令が下り、その大切な仕事は、私たち1期から39期にわたる寄せ集めの素人集団に回ってきました。暗中摸索、ともかく「たたき台」を作ってみて、大方のご意見を伺いながら、よりよいものに育てていこうということにしました。

志木は、私たちのみんなが、多感な16歳から18歳という時期を過ごした、心のふるさとです。その志木で、ともに学び、遊んだ仲間たちの情報交流の場として、また学校と卒業生を結ぶパイプと

して、この会報が役立つならば、たいへん嬉しいと思います。

終わりにりましたが、創刊に際して、お忙しい中を玉稿を賜りました石川塾長、服部連合三田会会長、宮下校長をはじめとする皆様に厚く御礼申し上げます。(馬)

慶應志木会会報 1989(春・夏号)●Vol.1

平成元年4月20日発行

編集・発行 慶應志木会(慶應義塾志木高等学校同窓会)
〒353 志木市本町4-14-1

発行人 櫻井英太郎

印刷 大日本印刷株式会社